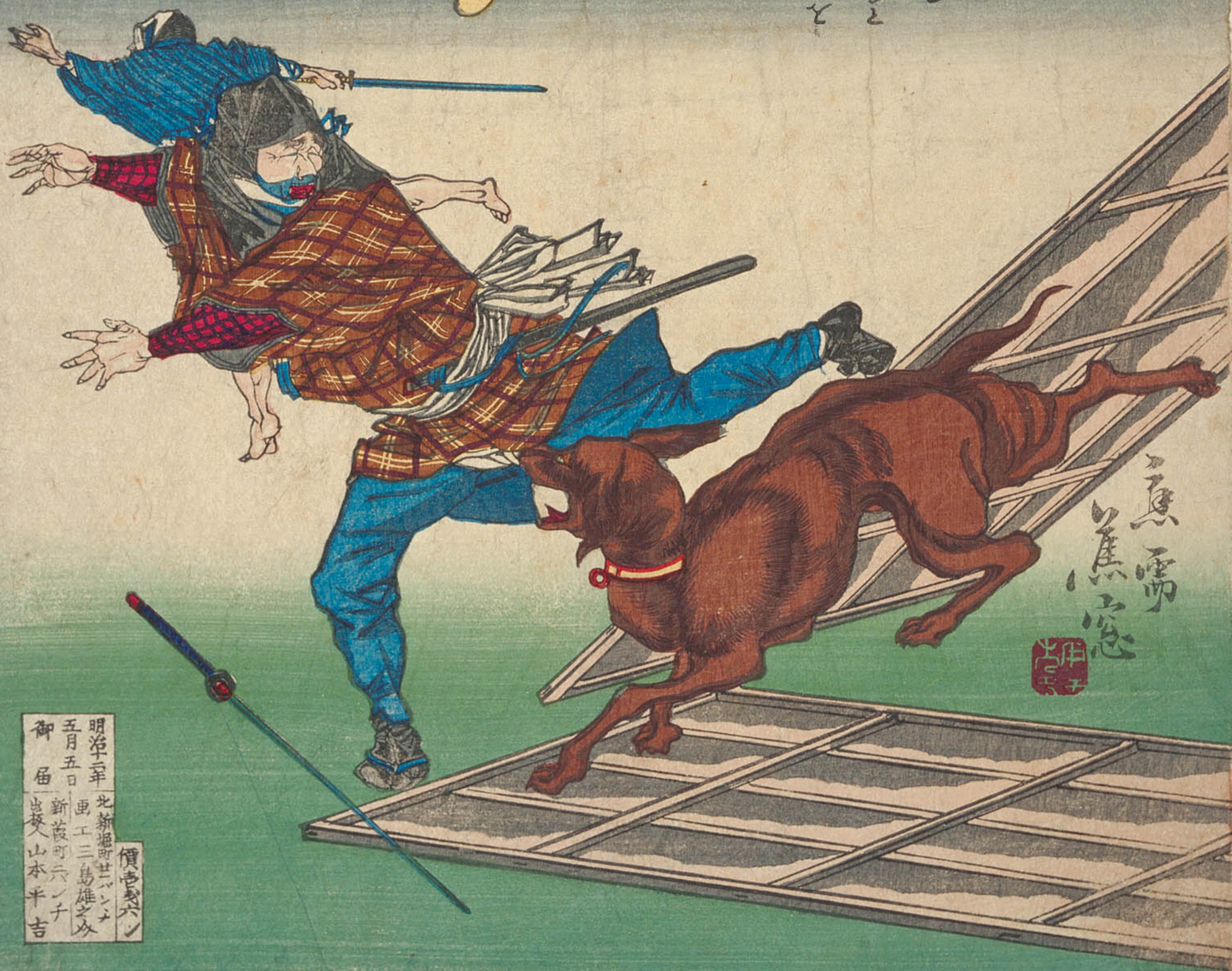


東京各社
撰抜新聞

波戸場ふ近く打寄る沖津白波たうさ山夜の深々と更なる
午前二時おぼろき頃横濱の南京町百八十何番館の内へ住む
洋妾吉野らう方へ押入し強盗の技刀をひきめし声を立てると
命がけを極り文句で威しめおらんと下女のおきんと
縛り今一人の下女おきんと引どり起し金の在る所を案内
せよとせられまらき一度の怖りせしもの中々性根の居る女
ハイと云つゝ立上り案内をとるあやうに入口へ寝ておる
二足の洋犬の綱をとれまと言さぬ戸を明ると二足の洋犬は
直ちに飛込て賊をうらうり突然お向腹へ咬つくに二人の
賊は逃まがひうらうくまると二足の洋犬は益々怒りて
咬付めを賊の恐まて何れも取らぬ命をうく逃失る技曲異
喜こび主人とおきんの縄を解無難に済しと祝を祈へ大の
非常お吠るの聞付おらうの旦那も尋ねまてあり
次第を委しめおきんとおきんと賞美なり金十両を
褒美にとりせ洋犬をまうく大切りなすと
是は明治十二年二月中旬のことなり



明治十二年
五月五日
御届
北新堀新世ハレン
画工三島雄之次
新設町六ノチ
出板山本平吉